経営比較分析表（令和6年度決算）

兵庫県香美町　ﾌｧﾐﾘｰｲﾝ今子浦

業務名	業種名	事業名	類似施設区分	管理者の情報
法適用	観光施設事業	休養宿泊施設	Ａ１Ｂ１	非設置
資金不足比率(%)	**自己資本構成比率(%)**	**建物延面積(㎡)**	**宿泊定員数(人)**	
0.0	99.9	2,149	86	

客単価(円)	指定管理者制度の導入	インターネットによる予約割合(%)
3,758	利用料金制	75.9
バリアフリー法の基準適合性	**トイレ洋式化率(%)**	**Wi-Fi設置**
無	53.8	有

グラフ凡例

■　当該施設値（当該値）

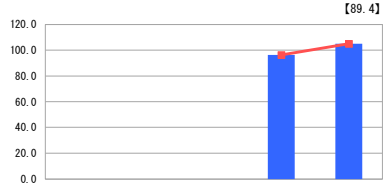
ー　類似施設平均値（平均値）

【】　令和6年度全国平均

1. 収益等の状況

①経常収支比率(%)

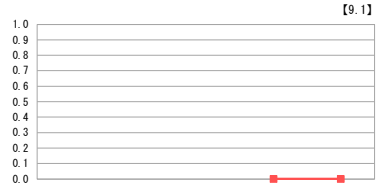
【89.4】



	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	－	－	－	96.4	105.0
平均値	－	－	－	96.4	105.0

②他会計補助金比率(%)

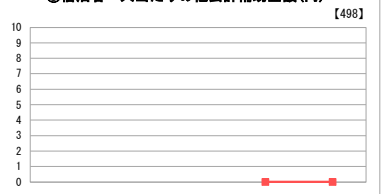
【9.1】



	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	－	－	－	0.0	0.0
平均値	－	－	－	0.0	0.0

③宿泊者一人当たりの他会計補助金額(円)

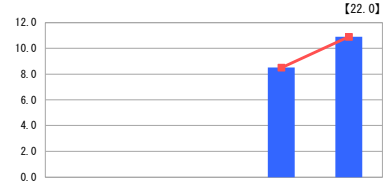
【498】



	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	－	－	－	0	0
平均値	－	－	－	0	0

④定員稼働率(%)

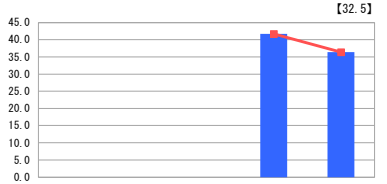
【22.0】



	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	－	－	－	8.5	10.9
平均値	－	－	－	8.5	10.9

⑤売上高人件費比率(%)

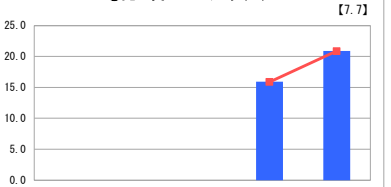
【32.5】



	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	－	－	－	41.7	36.4
平均値	－	－	－	41.7	36.4

⑥売上高ＧＯＰ比率(%)

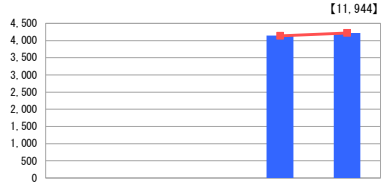
【7.7】



	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	－	－	－	15.9	20.9
平均値	－	－	－	15.9	20.9

⑦ＥＢＩＴＤＡ(千円)

【11,944】

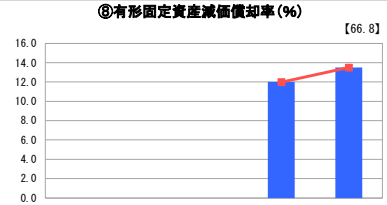


	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	－	－	－	4,142	4,222
平均値	－	－	－	4,142	4,222

2. 資産等の状況

⑧有形固定資産減価償却率(%)

【66.8】



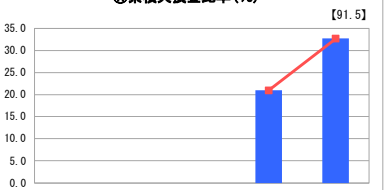
	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	－	－	－	12.0	13.5
平均値	－	－	－	12.0	13.5

⑨施設の資産価値(千円)
135,477

⑩設備投資見込額(千円)
153,954

⑪累積欠損金比率(%)

【91.5】



	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	－	－	－	21.0	32.7
平均値	－	－	－	21.0	32.7

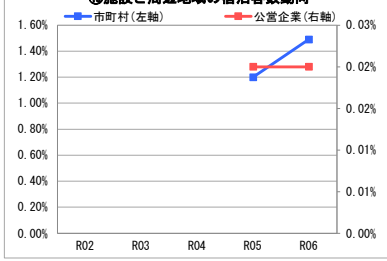
⑫企業債残高対料金収入比率(%)

【38.7】

	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	－	－	－	0.0	0.0
平均値	－	－	－	0.0	0.0

3. 利用の状況

⑬施設と周辺地域の宿泊客数動向



分析欄

1. 収益等の状況について

経常収支比率は、企業会計に移行した令和５年度から改善し、100%以上となった。

他会計からは、繰り入れを行っていないことから他会計補助金比率は0%となっている。

定員稼働率については、利用者数が増加したことに伴い、改善されている。

売上高人件費比率について前年よりも数値が改善してきている。

今後も健全形成を続けていくために改善点を洗い出していく必要がある。

2. 資産等の状況について

昭和63年の施設建設から約35年以上経過して老朽化が顕著である。

現在は、町と指定管理者において改修の費用負担区分を明確にし、全ての改修は指定管理者が実施したうえで町が負担すべき費用について指定管理料をもって町が負担する仕組みを取り入れている。この上限額は指定管理期間である３年間において上限30,000千円としている。

この仕組みにより長期的な経営計画に基づき、計画的に施設の改修を実施することができている。

今後も指定管理者とともに必要な投資を見極める必要がある。

3. 利用の状況について

本町における宿泊需要は、一定程度あり改善してきているが地域全体では、まだまだ厳しい状況が続いている。

団体旅行から個人旅行への嗜好の変化、観光を取り巻く様態が変化してきたことによるものである。

今後、旅行業界等の重要の変化に注視しつつ、それらに則した対策を講じるとともに宿泊・食事の利用の他、多様な利用形態を検討していく必要がある。

全体総括

指定管理者による運営は、５年目を迎えた。新型コロナウィルス感染症による行動制限がなくなった状況の中で経営を行った。令和５年度は、施設として広告宣伝等の営業活動を強化することができなかった反省を踏まえ、令和６年度は積極的な広告宣伝等の営業活動を行った。広告宣伝の内容としては、ネット広告を強化した結果、前年を大きく上回る宿泊者数となった。

しかし、年間業務予定量には達しておらず、さらに営業活動を強化していく必要がある。今後は多様化する旅行客のニーズの把握に務め、常に最新動向にアンテナを張り収益の増強に向けて取り組む必要がある。